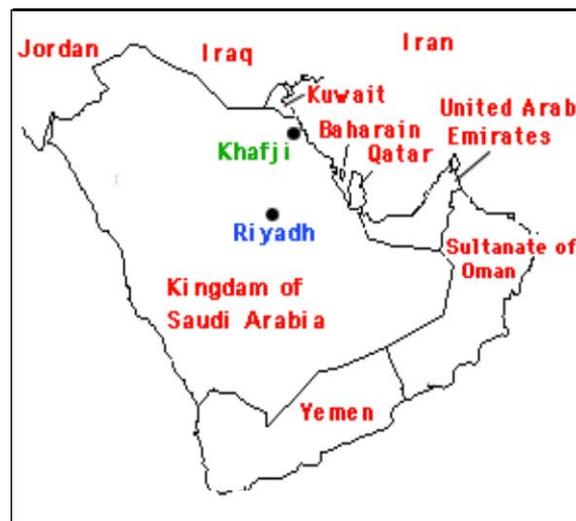


## サウジアラビア便り (1)

### 第 1 回：大規模緑化比較実証事業について

このシリーズでは、昨年 1 月末から当社が関与することとなった財団法人石油産業活性化センター（PEC）の産油国石油精製技術等対策事業費補助金による大規模緑化比較実証事業について報告していく。

本事業は、日本と産油国との連携強化の一環として実施しているものである。当初は右図中のカフジ（緑字）のみで実証事業だけが行われる事になっていたが、その後サウジ側の要望もあり、研究も含めることとなった。カウンターパートは、King Abdulaziz City for Science and Technology（KACST）と言い、リヤドを本拠地としており、日本での科学技術庁に相当する。設立されてから今年で 23 年が経つが、現在の名称になってからは 14 年が経過している。（サウジではヘジラ暦＜閏月の無い太陰暦＞なので若干のズレはあるかも知れない。）研究機関として、KACST は 7 つの研究所を擁しており、ちなみに本事業での直接の相手は Natural Resources and Environment Research Institute（NRERI）である。この組織は生態学（植物、動物）、水理学、農学（栽培、灌漑）、水産学（内水面漁業）、リモートセンシング等の分野に分かれており、本事業のほぼ全てのテーマをカバー出来る唯一の研究機関である。研究は主にリヤド（青字）の KACST 本部及びリヤド近傍の KACST ムザヒミヤ研究圃場で、実証は前述のカフジで行われることとなった。本事業は、下の表に示すようにの 6 つの大きなテーマで構成されている。各テーマ毎に Primary Investigator（主任研究員）と Co-Investigator（副主任研究員）が各 1 名配置され、日本人常駐研究員 3 人、KACST 側研究員 5 人が共同して実証及び研究に当たっている。



アラビア半島



KACST本部

テーマ	内容
水処理技術開発 （リヤド KACST 本部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水の有効利用に関する膜技術および水処理技術開発</li> <li>高濃度アンモニア態窒素分除去のための水循環システムの開発</li> </ul>
節水かんがい技術 （ムザヒミヤ研究圃場）	<ul style="list-style-type: none"> <li>多孔質チューブによる節水かんがい技術</li> <li>ポリマー溶液による難透水層の形成技術</li> <li>保水剤による節水かんがい技術</li> <li>節水を可能とするかんがいシステム用および上下水道用機器の選定</li> </ul>
緑化技術開発 （ムザヒミヤ研究圃場）	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生微生物利用による緑化技術の開発</li> <li>植物成長促進剤による緑化促進技術</li> <li>緑化促進のための異なる組成の土壌と有機物の混合比率の決定と評価</li> <li>サウジアラビアにおける耐塩、耐乾性植物のスクリーニング</li> <li>自動播種発芽装置を用いた緑化花壇苗の育成技術</li> </ul>
環境、エネルギー技術 （リヤド KACST 本部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電利用技術</li> <li>リモートセンシング技術および GIS 利用による土地有効利用および植生活性度データベースの構築</li> </ul>
廃水処理技術 （カフジ実証地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃水処理技術</li> </ul>
耐塩、耐乾、耐暑性 植物栽培技術（カフジ実証地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>芝草の栽培技術の検討</li> <li>ナツメヤシ、樹木の栽培技術の検討</li> </ul>